

梅鶯仏教壮年会報

第143号
2017年
9月17日

梅鶯仏壯聞法親睦旅行

本年度は、本願寺神戸別院（通称モダン寺）参拝を中心に行います。今般も、田中薫氏のコンダクトによる素晴らしい計画が立てられました。梅鶯仏壮会員の、新たな思い出の1ページになることを期待しています。

《初日》

- 本願寺神戸別院参拝
- 神戸コンチエルト乗船
ーランチクルーズー
- エクスプ有馬離宮
ー懇親会・宿泊ー

《二日目》

- 六甲山
- 櫻正宗記念館
- 菊正宗記念館

日暮れて遠い 帰り道ー
我が家の窓に 灯りが見えて、
ほのぼの感じる あたたかさー。
まっすぐに 感じる人がある
そんな幸せ 感じてますか？
この世の旅の 行く先きに
待っていてくださる 如来（かた）がある
そんな幸せ 感じてますか？

「梅鶯」のルーツを訪ねて⑦終

会長 森 勝昭

連載してきま
した「梅鶯」
のルーツを訪ね
て「今号で最
終」となります。
そこで最後に
私の感想を述べ
させて頂きます
まず、あの時
代に、よくぞこ
れだけの資料を
残されたのと、
当時の梅鶯仏教
青年会の役員・
会員様には、た
だ頭が下がるば
かりです。※現
在の梅鶯仏壮資
料は、すべて住
職がP.Cに保存
されています。
結婚するまでの
若い青年が仏法
を学ばれた背景
には、少なかつ
たといえ、や家
族構成（そこに
は仏法を喜ぶ爺
ちゃん、婆ちゃん
がいた）、そして
ご指導があつた
ことだと思いま
す。今の八十歳
前後の方はこの
様に鍛えられ



て、お寺の総代
や次の世代の者
を育てて頂きま
した。
今の六十歳代、
七十歳代がいかに
して次の世代に
引き継いでいく
かは大事な仕事
であります。その
意味で、平成十五
年に梅鶯仏教壮
年会が立ち上がつ
て以来十三年目
になり、まだまだ
未熟な仏壮ですが、
普段通りで背伸び
せず気楽に参加し
て、長く続くよう
に思っています。
私自身、まだまだ
勉強不足ですが、
一つでも、二つ
でも仏縁に出逢
えて感謝し、良
い思い出を残し
て、我が人生に
忘れ物がない
ように願っています。
合掌了



題材法話

浄土真宗のみ教え⑦ 「限りなき光と寿の仏」

＊拝読「浄土真宗のみ教え」の12頁をお読み下さい。

「限りなき光と寿の仏」とは、阿彌陀様のことで、が、本章では阿彌陀如来といふ仏様はどのような仏様かといふことが述べられています。

○法蔵菩薩

法蔵菩薩とは、阿彌陀如来が仏となる前に修行されたいた時の名前です。このことは浄土真宗の根本所依の經典であります。一仏説無量寿經に詳しく説かれていますが、要約します。とつぎのようになります。

「お釈迦様よりもはるか昔に、一人の国王が世に在王（せじざいおう）という師の説法を聞き、大きな喜びに包まれ、自らも仏道を極めようと決心し、王位を捨てて法蔵菩薩と名づけた。菩薩とは『悟りを求めて努力する人』という意味です。」



すが、法蔵菩薩はその後、はかり知れないほどの長い時間をかけて修行を重ね、衆生を救済したいという慈悲に立って、その願いを完成させて『阿彌陀如来』となられたのです。

○阿彌陀如来

阿彌陀如来は、あらゆる世界、あらゆる時代のすべての人たち（衆生）を救い取って下さる仏様で、『阿彌陀如来』というお名前はその働きを表すお名前なのです。

☆阿彌陀（アミダ）

↓アミターバ ↓無量光
↓アミターユス ↓無量寿

もともと「阿彌陀（アミダ）」とは、インドの古い言葉である「アミターバ」と「アミターユス」を音写したものです。

「アミターバ」とは「無限の光」、
「アミターユス」とは「無限の命」という意味で、
中国では、「無量」と「無量光」と「無量寿」と



訳しました。

よく「無量寿」や「無量光」という言葉や字を目にしますが、どちらでも「阿彌陀如来」の別名なのです。

○いつでもどこでも

それでは「無量光」「無量寿」とはどのような意味なのでしょう。

言葉の意味そのものは、「計り知れない光と寿（いのち）」ということになり、ますが、これは阿彌陀様の働きを表しています。

阿彌陀様は、あらゆる衆生（凡夫と呼ばれる私たち）の願いを建てられ、そしてその願いを完成させて仏と成られました。

「いたがって、その働きはいつでも、どこでも」なのです。

言い換えれば、「時代や場所がかわれば救いません！」では、阿彌陀様のはたらきとはなりません。

「寿」は時間を表し、
「光」は空間を表します。

「無量光」であり
「無量寿」である



ということ、いつの時代でも、どの場所でも」ということになるのです。

○「智慧」と「慈悲」

また「寿」とは「慈悲」を表す言葉でもあり、
「光」とは「智慧」を表す言葉でもあります。

阿彌陀様の衆生救済は、「愚かな私をそのまま抱き取る」という「慈悲」の働きであり、「その愚かさを破って、正しい世界へと導く」という「智慧」の働きでもあります。

この二つの働きにおいて、阿彌陀様の働きには「限りが無い」ということになるのです。

なお、「如来」とは、「人々を救うために、かくのごとく来たりし者」という意味ですので、「阿彌陀如来」とは「人々を救うために、限りのない働きをする仏さま」ということになり、

次号へつづく
例会住職法話より

